

二〇〇八年度 協会新委員揃う

二〇〇八年度、国立新美術館では二回目となる72回展開催をめざし、以下の体制で臨むことになりました。全会員各位のご協力とご理解をお願いいたします。

記

◆委員長 瀧 徹

◆副委員長 岡崎 紀

” 森 史夫

◆代表委員会

絵画／鍋島正一・林 純夫・矢澤健太郎
彫刻／岩間 弘・柴田正徳・大田雅代
SD／下山 肇・雨山智子・金子武志

◆合同委員会

◎会計委員会

絵画／小島隆三・小林昭子・眞野眞理子
彫刻／大野春夫・永津守 SD／加藤徹
・吉田淳子

◎図録委員会

〔図録担当〕 絵画／菅沼光児・武藤岩雄
・千葉文隆 彫刻／久保制一・酒井良・
大野匠 SD／杉田文哉

〔目録担当〕 絵画／一居孝明 彫刻／古

川武彦 SD／二井進

〔広告担当〕 絵画／鈴木喜美子 彫刻／

田中実 SD／尾埜行男

◎IT委員会

絵画／屋嘉部正人 彫刻／鳥原正敏・河
西栄二 SD／岡本泰子

◎広報委員会

〔広報担当〕 絵画／佐々木宗實・阿曾沼
明 彫刻／奥田真澄・鈴木武右衛門 S
D／田中遵

〔会報担当〕 絵画／山口都 彫刻／藤森

民雄 SD／中野威

〔HP担当〕 絵画／竹内一 彫刻／吉原

和夫・河西栄二 SD／金子武志

◆特別委員会

◎美術館担当委員

絵画／樺山祐和・小島隆三 彫刻／上野
良隆・川村兼章 SD／佐伯和子・雨山
智子

◎受賞作家展委員

絵画／間中敏子・松木正代 彫刻／高橋
枘旺・田村史郎 SD／下山肇・山口和
加子

◎懇親会委員

絵画／矢澤健太郎・金本啓子 彫刻／宇
多花織・小川幸造・佐善圭・杉山惣二
SD／藤原郁三・野口育郎

◎資料編集委員

絵画／福田徳樹 彫刻／平山隆也 SD
／日高單也

◆美術団体懇話会

絵画／矢澤健太郎 彫刻／北郷悟 SD
／白川隆一・佐伯和子

◆会計監査

絵画／鶴見雅夫 彫刻／雨宮透 SD／
日高單也

〔事務所員〕 矢野淑子（月・水・金）

~~~~~ あ い さ つ ~~~~~



委員長  
瀧 徹

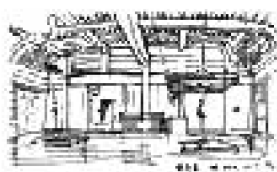
とある

第72回新制作展は新しい環境での二回目の展覧会です。

さらに気分を新たに、創作には元気な体力と気持が一番です。感動を与える作品を発表しましょう。私自身、初出品から今年で四十四年新制作に身を置き、今年、はからずも委員長をおおせつかりました。

しかし、作家集団が七十二年も連続と続くことに不思議な思いもします。

時の流れに身をまかせながら、集団として、社会の変化の関わりの中で、どれだけ自分を表現できるのか、自問自答の日々です。しかし、常に新たな出発をイメージし、変化を求めて進んでいきたい。そして新制作派発足の理念をもう一度、一人一人が思い起こすことにより、さらに進化した新制作が表現者の集団として続くことを願っています。



# 資料編纂と<sup>1</sup>号 巻頭言について

資料編纂委員 平山 隆也

「平山さん、面白い図録を神田の古本屋で見つけたよ」と、造形大の井田勝己先生から新制作派図録第4号を見せられた時は、驚きで自分の不勉強さが情けなくなつたものです。借りて読んで、自分も一冊欲しくなりました。思えば、これらの図録を、十三年前、事務所の書棚で第1回から第60回まで整理し並べ直したメンバーの一人であつた自分は、その後、紛失などが起き、その中身を一度も見ることがなかつたのです。

この4号は、その三年前に創立された新制作派協会油画部に、新たに彫刻部が創設された年の記念すべき号で、若き日の創立会員の方々の作品、制作風景や舞姿等の写真と、新しい美術運動への熱意溢れる文章が掲載されていました。これは新しい時代に向けての協会内外でのコミュニケーションの中心的役割を担う足がかりの元であるから、ぜひ復刻し、CDにして多くの会員、出品者諸氏、鑑賞者の皆さんに見て頂き、読んで頂きたいと考えたものです。井田先生には、まったく感謝感謝で御礼申し上げる次第です。このようなことが縁となり、七十二年間の新制作の歩みを編纂し、資料として整理する役割を仰せつかったと考えています。資料編纂委員会は、絵画部・福田

徳樹氏、彫刻部・平山隆也、SD部・日高單也氏と、事務方二名で発足しました。予算も認められ、図録・目録の欠落を補うべく、会員、物故会員遺族の方々にご協力をお願いしようとアンケートを実施したところ、早速ご回答を多数頂き、お手持ちの図録等の保有、寄贈、貸出し等の状況を把握することができました。

最初に、彫刻部の佐藤忠良先生に無理やりOKを頂き事務所スタッフと三人で訪問。いざという時のお助けをお願いし、資料編纂活動の発足と今後の計画をお話ししました。先生からは彫刻部創設当時の楽しいお話の後、最新型のコピーメーカーをカンパ頂き「がんばれよ!」と、活動に弾みをつけて頂きました。

故鈴木新夫先生宅では奥様の八千代様にお会いし、椎名町の昔のアトリエ村の路地の面影の残る新しいアトリエで、図録、目録を多数寄贈頂きました。

故中西利雄先生宅では、昭和初期のドイッ下見板張りのアトリエで、ご子息の利一郎氏との楽しい語らいの後、多数の図録、目録を寄贈・貸与頂き、お土産にカエデの若枝……これは現在「転ばぬ先の杖」として私がありがたく使用中です。皆様方の心やさしいご協力により、図録は一気に揃ってまいりました。

ここで、私達は驚くべきことにぶつかったのです。新制作派の図録は、第4号のような創立・創設時の会員諸氏による小冊子型の「会員図録」だけと考えていましたが、間違いでした。実際は、第1回から出品者全員の作品写真を掲載した図録や目録があつたのです。これを、以後「出品者図録」「出品者目録」と呼びます。この三種類が、その後どのように変化して現在の形になったのかは、図録発行が不明な時期の状況調査の中で判明してくると思っています。

また、この時期は太平洋戦争勃発から終戦の混乱期と重なります。戦時体制における厳しい統制下での制作活動、戦後の飢餓の時代と新しい民主主義の導入、新しい西欧文明の影響はいかなるものであつたのでしょうか? この大変動期に生き、旺盛な制作活動を進めてきた会員・諸先輩の方々の力の源は何だったのか、この辺りは最も気になり、興味あるところではあります。

資料編纂は、当然「会員図録」の1から入ります。最初に目に飛び込んできたのは「巻頭言」でした。この文には執筆者の名前がありません。以下、図録(作品写真)、23Pは藤島武二帝国美術院改革に関する私見、24Pに佐波甫「新しい芸術精神」26Pは富永惣一「色・色・色」と続きます。そして、どれも厳しい内容の文章で貫き通されています。この精神によって制作された作品群は、会場に入っ

たまだ若い私に、この精神の素晴らしさを、作品を通して教えてくれたと考えています。

かつて、故小松益喜氏が、新制作派の創立精神の素晴らしさや、制作態度の厳しき、そこから生れる作品群の芸術性の品格の高さについて何回も語ってくれましたが、今思い出しても楽しいひとときでした。そのように厳しい制作態度で制作を進めている会員諸氏が、一点一点よく見て、場合によっては大議論して決めていく新制作展ならではの審査のことなど、初めて聞く公募展の内情に驚いたものです。このような厳しい理想を持った会に自分も参加させて頂きたいと考えたのですが、当時は作品制作のための経済的基盤の確立をどのようにしたらいいのか分からず、また、分かるまでには多量の時間、失敗が必要でした。

現実社会では、生活上の妥協はどうしても求められますし、必要です。しかし、すぐ大河に流れられ溺れそうになる自分……こんな時、弱い自分を元の出発点に戻してくれる力、その力がこの会員図録1の「巻頭言」にはあります。

最後になりましたが、会員図録、出品者図録・目録を寄贈、貸与して下さった皆様、高橋米様、鈴木八千代様、中西利一郎様、丹羽和子様、伊藤茂廣様、丹下寿一様、菊池桂子様、誠にありがとうございます! 一同、がんばります!

(彫刻部会員)



## 卷 頭 言

2

是の藝術が理解されるためには、その純粹な造形的追求による藝術の真善美によつてのみである、それが官制權力の保護や市場的人氣に置きかへられる事は藝術家の最も恥かしい事でなくてはならない。

現狀に於て我々は文藝が餘り住みいゝブールであると思へないのも、この原則を確立し、眞にあらゆるものから獨立した發展性のある藝術を獲得したい熱望によるものである。これは自からの責任であると同時に我々の天職であると思ふ。これは困難なる道の道でもあるであらう。然し又其處には其の藝術家だけに許される深い喜びがある。

我々は過去一ヶ年の凄惨の混亂から知り得た唯一の事は、現在こそ制作活動を純化旺盛にし作品自體に我々の立場を設けなくてはならないと云ふ事であつた。我々は曾つて畫壇明細化のため幾多の集團的行動を餘儀なくして來た。然し最早我々は獨り歸り、各人各個性の信するまゝに仕事一切を集中しなければならない。唯だ我々に貫した藝術上の主張と環境とが我々の團結を更に緊密にして行くであらう。ここに極めて簡単に我々の主張を説明して我々の新しい出發の第一歩をしたい。

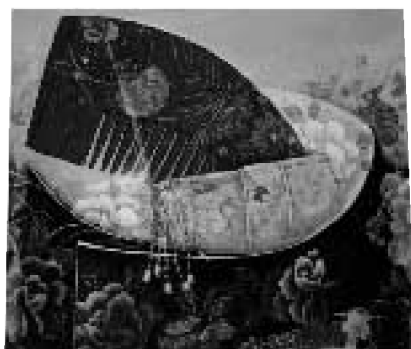
それは過去一切の藝術上の再批判の新しいポイントであると同時に、常に進歩的意識の下に新しい世界に新しい仕事を發見しようとする正しい熱望としての藝術上のモラルの問題である。これは廣義の意味に於ける行進主義的な問題であるに止まらず、畫壇に於けるトワールと作家との間に白熱する非人間的なモラルであり、又對照への恐ろしい反逆の自覺された造型意識でもある。又同時に形式主義藝術の見失はれた内容の追求である。

我國に於ける現代美術の發展がヨーロッパに於ける新思藝術の形式的移植に促され、單なるイデオの運動として終つてゐる時、我々は新しい在野展の意義をこの根本的な問題に同けたいと思ふのである。

かくて我々は行動、制作、發表を眞に一元的ならしめる事に新しい展覽會の意義を持ちたいと期するものである。



◀新保基平  
風景  
40.9×53.0cm



▲鈴木幸子  
懷飾り  
45.5×53.0cm

▼高橋正樹  
生命の誕生 08'-1  
45.5×53.0cm



▲竹本義子  
キッチンの詩(うた)  
45.5×37.9cm

▼森 弘江  
斜光 A  
37.9×45.5cm



## 受賞作家展

会期：2008年2月10日(日)  
～16日(土)  
会場：銀座東和ギャラリー

絵  
画



▲手嶋醇子  
一隅  
37.9×45.5cm

▼空谷素子  
想い出  
53.0×45.5cm



会期：2008年2月18日(月)  
～3月1日(土)  
会場：ギャラリーせいほう

彫  
刻

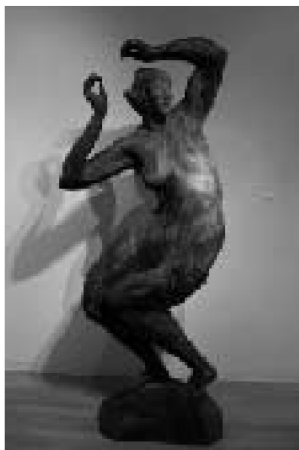
▼池田吏志  
ある日の肖像 I (黒御影石)  
80×30×60cm



▼高堀正俊  
晨光  
45.5×37.9cm



▲曾根三千代  
風の中に  
45.5×53.0cm



▲小柳 力  
断崖 (木)  
50×60×200cm



▲木原智代  
無題 (ミクストメディア)  
78×70×170cm



▲細田修己  
ディベルティメント I  
(divertimento) (黒陶)  
80×40×80cm



▲森 智之  
見つめる少女  
(陶・木)  
50×50×170cm



◀平田義之  
Cycle  
(黒御影石)  
60×28×128cm



▶椎名良一  
あのね  
(黒御影石)  
40×100×60cm



▲増井岳人  
Kind gravity よりトルソ6 (テラコッタ)  
130×100×80cm

## スペース デザイン

会期：2008年2月10日(日)  
～2月16日(土)  
会場：建築会館ギャラリー

▶野口真理  
曲 being bent  
90×180×36cm  
(陶)



▲宇田 恵・近藤愛子・新海涼子・高橋 綾  
咲  
270×270×80cm  
(ピアノ線・半紙・シナベニア)

▶山本景子  
空(くう)を結ぶ  
135×75×80cm  
(ヒバ)



## \* 展覧会情報 \*

◇本年度、72回展は9月17日(水)を初日として開催されます。24日(水)は休館となります。

◇新作家賞受賞者には、賞牌として彫刻部会員一色邦彦氏の作品が授与されます。授賞式は9月17日(水)12時30分より国立新美術館講堂にて開催します。

◇懇親会は、展覧会初日の9月17日(水)、各部別に行います。詳細は搬入時、または通知の際にお知らせします。

◇ギャラリートーク

9月20日(土)14時～16時、各部会場で開催。会員、出品者入場者の方々の意見交換の場です。ふるってご参加下さい。

◇72回展の全出品作品をカラー図版で掲載した図録を発行します。

◇72回展図録(出品目録付)

編集発行 新制作協会

入選者には図録負担金をお願いします。

◇72回展入場料

一般券八〇〇円／学生無料

## 72回展応募規定

抜粋

◇展覧会名称 第72回新制作展

◇会場 国立新美術館

東京都港区六本木7-22-2

◇会期 08年9月17日(水)～9月29日(月)

10時～18時(入場は17時30分まで) 但し金曜日は20時まで(入場は19時30分まで)

分まで)

◇搬入受付 9月3日(水)・4日(木)

◇搬出

選外作品 9月13日(土)・14日(日)  
展示作品 9月30日(火)・10月1日(水)

※搬入受付・搬出時間ともに10時～17時

◇陳列 9月16日(火) 10時～17時

◇撤去 9月29日(月) 14時～

【絵画部】

◇作品サイズ

H227×W227×D30cm以内。

◇応募料 応募作品1点につき1万円、以後1点増すごとに5千円。

◇応募点数の制限はなし。

◇額縁の幅は5cm以内とする。

◇本年度から、30歳以下の方を対象にデ

ータ(スライド)審査を実施。提出期

日、形式等の詳細は別紙又は新制作協

会ホームページを参照のこと。

【彫刻部】

◇作品サイズ

◇単体作品の場合

H280×W300×D200cm以内。

◇組作品の場合

H400×W400×D300cm以内。

◇作品重量

◇室内 1点の総重量2tまで。(床面積

積に対しては1・5t/m<sup>2</sup>まで)

◇野外 1点総重量5tまで。(床面積

に対しては2t/m<sup>2</sup>まで)

※但しひとつのパーツの重量は3tまで。

◇搬入 作品が規定を超過した場合及び

危険を伴うと判断された場合は搬入を

受け付けない。

◇応募点数 制限なし。

◇応募料 3点まで1万5千円、4点目

以降は1点につき3千円。

【スペースデザイン部】

空間に関するあらゆるデザイン作品、実物、実験的作品、写真、模型等を対象。

◇作品サイズ 制限はないが、限りあるスペースを考慮すること。壁面の高さは4・8m

(エレベーター内寸 H300×W250×D350cm)

◇作品重量

床面展示作品 1・5t/1m<sup>2</sup>まで

中空吊り作品 200kgまで

壁面展示作品 50kg/幅1mまで

◇応募点数 制限なし。

◇1点につき1万円、以降1点増すごとに3千円加算。

◇その他

①展示上危険を伴わない作品であること。

②設置、移動に耐えうること。

③2個以上の部分で構成される作品は

図面又は写真を添える。

④共同制作の場合は、全員について応募

目録に必要事項を記入の上、連絡先1名を明示する。

⑤野外展示作品についても認める。

⑥野外展示場水勾配 1/100

⑦軽量の中空吊り作品は搬入場所です

ットアップできる。

⑧組作品の展示に際し、スペースデザ

インという性格上、作者との話し合

いの上で構成等を一部変更する場合

がある。

⑨宅配便搬入については、(株)中田美

術に問い合わせること。

◇作品の取扱い 応募作品が他の作品を

破損するおそれがある場合は、搬入を受

付けないことがある。

◇付加事項

◇「応募料の支払」 8月27日(金)までに協会指定の用紙にて郵便振込とする。なお、やむを得ない場合に限り搬入日に現金にて受付ける。

※一度振込まれた応募料は返金されない

ので注意のこと。

◇「駐車場」搬入時の駐車は2時間まで

可能。車両の入館は8時30分～20時まで。

車両の大きさは、高さ3・8m、幅2・

5mまで。入館時に届出書に記入する。

◇巡回展開催日程

\*新制作京都展

会期 08年10月21日(火)～10月31日(金)

休館日 月曜日

会場 京都市美術館

\*第72回新制作絵画展

会期 08年11月11日(火)～11月16日(日)

休館日なし

会場 愛知県芸術文化センター

8階ギャラリー

\*第72回新制作絵画広島展

会期 08年11月25日(火)～11月30日(日)

休館日なし

会場 広島県立美術館・県民ギャラリー

◇新制作協会eメールアドレス

新制作協会の事務所でeメールが受

けられます。ご利用下さい。

webmaster@shinseisaku.jp

会報編集委員 絵画部・山口 都

彫刻部・藤森民雄 SD部・中野 威

(カット) 野原家・森史夫 (吉國写植室)